

令和2年度年末年始における 県内の主な温泉地及びスキー場の観光客数の状況について

1 調査期間

令和2年12月29日（火）から令和3年1月3日（日）まで（6日間）

2 結果概要

（1）県内主要温泉地宿泊者数

	R2年度	R元年度	R2/R元
草津温泉	26,422人	52,021人	50.8%
水上温泉郷	15,050人	40,850人	36.8%
伊香保温泉	12,425人	32,704人	38.0%
四万温泉	4,060人	10,423人	39.0%
万座温泉	3,933人	10,398人	37.8%
老神温泉	2,395人	5,364人	44.6%
磯部温泉	1,242人	3,186人	39.0%
やぶ塚温泉	255人	905人	28.2%
猿ヶ京温泉	1,756人	5,278人	33.3%
計	67,538人	161,129人	41.9%

（2）県内スキー場地区別利用者数

	R2年度	R元年度	R2/R元
草津地区	10,729人	18,255人	58.8%
嬭恋地区	17,447人	35,071人	49.7%
片品地区	53,023人	58,379人	90.8%
水上地区	35,843人	34,119人	105.1%
その他地区 （※）	24,007人	37,776人	63.6%
計	141,049人	183,600人	76.8%

※その他地区＝沼田市・川場村

3 概況

（1）県内の主な温泉地の宿泊状況について（温泉地への聞き取りによる）

- ・主な温泉地の宿泊者数は前年度比41.9%となり、大幅に減少した。
- ・減少の要因としては、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛要請、Go To トラベル事業の一時停止、年末の大雪の影響等によるものと考えられる。

（2）県内スキー場利用状況について（スキー場への聞き取りによる）

- ・県内スキー場の利用者数は前年度比76.8%と減少した。
- ・特に、草津、嬭恋、片品の各地区は、Go To トラベル事業の一時停止の影響からスキーを目的とした宿泊客のキャンセルにより、利用者数が減少した。

※本調査は、対象市町村、観光協会等が温泉地の宿泊者数及びスキー場利用者数を調査し、県及び県観光物産国際協会が集計した。